

18	豊田	衣丘小学校	シバタ サエ 氏名 柴田 紗衣
分科会番号	7	分科会名	美術教育

仲間との関わり合いを通して発想を広げて創造を楽しむ児童の育成
 — 4年 図画工作科「まぼろしの花」の実践を通して —

1 主題設定の理由

本学級の児童に「図画工作科は好きか」というアンケートを行ったところ、学級の8割以上の児童が「好きだ」と答えた。好きな理由は「色を作ったり、色をつけたりするのが楽しいから」という回答が最も多かった。「絵の具でゆめもよう」の学習では、様々な技法を進んで試し、手や体全体を働かせながら、描画活動を楽しむ姿が見られた。また、鑑賞活動では、友達の作品にも関心をもち、「すごい!」「こんな風に描きたい!」と素直に言葉にして伝え合い、互いのよさを認め合っていた。一方で、図画工作科の学習に対して、「好きだけど自分の描きたいように描けない」「アイデアが浮かばない」という回答もあり、自信がもてない児童がいることも分かった。本校創作題材の「曲を聴いて絵に表そう」や「読書感想画」の学習では、歌や物語から具体的なイメージを思い浮かべて表現する活動で手が止まったり、悩んで描き出せなかったりする児童が多く見られた。また、製作の中盤で自分の作品の表現の方向性に迷い、活動が進まなくなる児童も多い。

図画工作科は、教科書に記載されている見本作品に加え、自分や友達の作品など様々な対象と出会い、対話を通して発想を広げることができる教科であると考え。また、学習指導要領の中学年の「B鑑賞」イにおいては、「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること」とあり、本題材はそれらを意識した題材だと言える。そこで、学習における題材の工夫と他者との関わりを有効に位置づけることができれば、友達と関わり合いながらイメージを膨らませ、新たな見方や考え方を見付けることができるのではないかと考えた。

本題材は、実在しない空想上の花を自由に創造する活動を通して、児童が豊かに発想しながら造形的な表現を楽しむことをねらいとしている。これまでに学習してきた多様な技法を生かし、色や筆使いの効果、構成の工夫などを試しながら、自分だけの「花」を生み出していくことを大切にしたい。また、製作の過程では試行錯誤したり、友達との関わりを通して新たな発想を得たりしながら、イメージを膨らませて具現化していく。そのような経験を重ねることで、児童が色や形に対する新たな見方や考え方を見だし、表現の幅を広げていくことを期待した。

以上のことから、本題材では「想像することを楽しみながら他者との関わりによる気づき」を大切な視点とし、児童が豊かな造形表現を味わいながら学びを深めていくことを目指して実践を行った。

2 目指す児童像

他者との関わりを通じて、発想と表現の幅を広げられる児童

○本題材における発想と表現の幅を広げられる姿の定義

- ・ 試行錯誤や、中間発表を通して楽しみながらイメージを引き出したり、膨らませたりしている児童。
- ・ 対話を通じて互いの表現のよさに気づき、自分の作品に生かそうとする児童。

3 仮説と手立て

<仮説>

自分の見方や考え方を深められるような物語の読み聞かせや種づくり、お試しコーナーでの技法体験を通したり、関わり合いの場を設定したりすれば、発想を広げて主体的に創造活動を楽しむようになるだろう。

<手立て①> オリジナル物語の読み聞かせと学習計画作成

・「まぼろしの花」という抽象的なテーマを設定し、児童が自由に具体的なイメージを膨らませることができるよう、テーマに関するオリジナルの物語を読み聞かせる。また、製作の見通しを自ら構築することで、学習への主体性を高められるようにする。

<手立て②> 花が咲く情景を思い浮かべて種を作る活動

・種から芽が出て花が咲くという情景を思い浮かべながら、「まぼろしの花」のイメージを膨らませられるようにする。

<手立て③> 「お試しコーナー」の設置

・図工室後方部に、スパッタリング、吹き流し、ドリッピング、スタンピング等のモダンテクニックを試すコーナーを設置する。また、これまでの活動で行った指描きやデカルコマニー、型紙を使って描いた作品例を前面黒板に掲示して既習内容が確認できるようにする。

<手立て④> 自分の課題を解決する中間鑑賞

・製作過程で自分の作品に対する「悩み」が出てくる児童が多いことから、4人グループでそれぞれが感じている悩みや困りごとについて話し合う時間を設ける。アドバイスをもらう内容については色・形・大きさ（構図）の他に背景に何を描くかなど、視点を明確にすることで、友達から具体的なアイデアを引き出せるようにする。話し合い活動時には、話型の書かれたカードを使って自分の意見をまとめながら話し合いを進めるようにする。

<手立て⑤> デジタル掲示板ツール「Padlet」の活用

・個人製作で作品が完成した後に自分の作品の写真を撮影し、写真とアピールポイントを学級全体に共有し、友達の作品のよいところや質問を書き込む活動を行う。

<手立て⑥> 学びを次時につなげる振り返り

・授業の最後に、ワークシート「図工日記」を使って、本時の振り返りをする時間を設ける。「～の表現に困っている」「次は～したいな」という話型を提示し、次時の活動の目標を明らかにする。題材の最後には製作した作品を校内作品展で展示し、保護者に鑑賞してもらい、意見をフォームでフィードバックしてもらえらるようにする。もらった意見をもとに、今後の製作活動への意欲を高めるとともに、自分の表現のよさや工夫した点に気付き、表現の幅を広げられるようにする。

4 抽出児童について

抽出児童	児童の現状	教師の支援（手だて）	教師の願い
A児	・アイデアが浮かんでも、その表現方法が分からず、手が止まってしまう。	・描きたい思いがわく題材設定をし、思いに合った着彩の仕方を児童が選べるようにする。 ・机間指導で個別に対話をして自分の興味と向き合えるようにする。	・何をどのように表現したいか自分で思いをもつことができるようになってほしい。 ・表現方法で困ったときは、何をどのように表現したいか他者に相談することができるようになってほしい。
B児	・自分の考えに自信がないため、表現することや作品づくりを心から楽しめていない。 ・自分なりの考えや思いをもっても、発言への不安から全体場で表現することをためらうことがある。	・製作途中でグループで互いの作品を見合い、よいところやアドバイスする場を設定する。	・作品をじっくり見たり、自分の感じたことを言葉や絵で表現したりできるようにしてほしい。 ・自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりすることで考えに自信をもち、深める経験をしてほしい。

5 題材構想 (9時間完了)

段階・時間		学習内容	教師の支援	評価
つかむ	1	○「まぼろし」って何だろう？ ・教師の語る物語を聞く。<u>手立て①</u> ・「まぼろしの花」という言葉から思い付くことを友達と話し合い、発表する。 ・今後の学習計画を立てる。	・児童の発想を膨らませるために、「まぼろし」と聞いて思い付くことを考え、友達と話し合ったことを板書する。 ・今後の学習の進め方について見通しをもてるように、生活科や理科で植物を植えた体験を想起させることで、種が必要であることに気付かせるなど児童と一緒に学習計画を立てる。	・「まぼろしの花」について、進んで考え、他者と話し合いながらイメージをふくらませようとしているか。 【思考・判断・表現】
挑戦する	2 3	○どんな花が咲くのかな？<u>手立て②、⑥</u> ・不思議な種から、どんなまぼろしの花が咲くか想像し、アイデアスケッチを描いたり、紙粘土で種を作ったりする。	・イメージを膨らませられるように、紙粘土で種を作りながら、種から芽が出て花が咲くという情景を思い浮かべるよう伝える。 ・表現の幅を広げるために、紙粘土には絵の具を練りこんだり、カラーペンで模様を描いたりしてもよいことを伝える。	・種をヒントに、誰も見たことのない「まぼろしの花」を想像しながら、伸びる芽や花などの表し方を考えているか。 【思考・判断・表現】
発展させる	4 5	○想像した花を描くにはどんな工夫をしたらいいのかな？<u>手立て③、⑥</u> ・用具の使い方（モダンテクニックなど）を工夫しながら、水彩絵の具やクレヨンなどを使って「まぼろしの花」を画用紙に表す。	・使ったことのある材料や用具を試せるように、図工室後方にお試しコーナーを設置したり、既習内容の掲示をしたりする。 ・思いついたイメージをすぐに反映できるように、表しながら新しく思い付いたことは描き加えるように伝える。	・材料や用具の経験を生かし、自分のイメージをどのように表すか考えている。 【思考・判断・表現】 ・想像した「まぼろしの花」に合う形や色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどを捉えている。 【知識・技能】
	6	○中間発表でアドバイスを伝え合い、イメージを広げて描こう <u>手立て④、⑥</u> ・友達と作品を見合ってよいところやアドバイスを交流する。 ・交流で得た意見や工夫をもとに作品の製作を進める。	・互いの作品のよさや表し方の工夫を感じ取れるようにするために、図工日記（振り返りシート）を使いながら作品をみんなで見合ってどんな感じがするのかを話し合う時間を設ける。 ・作品の質を高めるために、友達からもらった意見をもとに自分の作品を見直すよう伝える。	・図工日記（振り返りシート）を使って互いの「まぼろしの花」について対話をしながら、イメージを広げている。 【思考・判断・表現】
	7 8	○自分の描く「まぼろしの花」に近づけるには、どんな工夫が必要だろう？ ・自分のイメージに合うように、各々で用意した材料を使って工夫して表す。 <u>手立て⑥</u>	・活動の意欲を高めるために、自分のイメージを表すための必要な材料を考えるように伝える。自分の「まぼろしの花」のイメージに合うように、材料を切り貼りしてもいいことを提示する。 ・自分の思いを表すために、前時の振り返りやアドバイスを参考にして製作を進めるように伝える。	・活動しながら表したいことを考えたり、どのように表すのか考えたりしている。 【思考・判断・表現】
振り返る・生かす	9	○自分の思いを表現するために工夫したこと、お気に入りポイントを伝え合おう <u>手立て⑤、⑥</u> ・自分や友達の作品を見合い、よさや表し方の工夫を感じ取り、気付いたことや思ったことをタブレットを用いて伝え合う。	・友達の作品を見合い、その場で感想を伝え合えるように、「Padlet」を活用して、視点に沿って鑑賞し、感じたことを書き込んで共有するように伝える。 ・細かいところや質感なども見合えるように、本物の作品を見ながら感想を書きこむように伝える。	・自分や友達の作品を見ながらよさを味わい、表し方の工夫などを感じ取っている。 【思考・判断・表現】

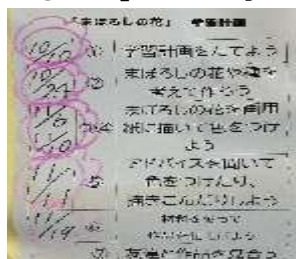
6 実践と考察

つかむ・挑戦する (1～3時間目) <手立て①②>

「まぼろしの花」の題材に入る前に事前学習として、現実には咲いている花を調べ、「マイ花図鑑」として冊子にまとめた。第1時の授業で、教師が考えたオリジナルの物語（資料1）を読み聞かせ、それぞれの思い描く「まぼろしの花」について意見を出し合った。ここでは題材に入る前に調べた「マイ花図鑑」と「まぼろしの花」との対比をし、新しいアイデアを生み出せるようにした。その後、作品づくりの流れを理解し、児童が見通しをもって主体的に活動に取り組めるように、児童とともに（資料1）の

ような題材全体の学習計画を立てた。

B 児はオリジナルの物語（資料 3）を聞くとすぐに「おしゃべりができるまぼろしの花の種を持っていたと思う」と、自分のまぼろしの花のイメージを具体的にもつことができていた。また、「ただ話せるだけじゃなくて、話すと勇気をもらえる花にしようかな」とより具体的に花のアイデアを考えていた。一方で A 児は、物語を聞いてもアイデアがまとまらず、なかなかアイデアスケッチに進めずにいた。そこで、花を描く前段階として「まぼろしの花の種」を紙粘土で製作する活動を取り入れた。「どんな場所で育つのか」「どのような力を持つ花になるのか」という生育環境やもつ力などの作品に物語性や世界観を与えることで、発想が具体化し、「花びらが音符になっていて、水をあげると面白い音が鳴る音の花にしたい」という考えをもつことができた。



【資料 1】学級で話し合い考えた学習計画



【資料 2】A 児が作製したまぼろしの花の種

みなさん、目を閉じてください。
ある日、目が覚めると、あなたは不思議な場所に立っていました。そこには誰も見たことも聞いたこともないふしぎな「まぼろしの花」が、咲いていました。あなたは思わず、その花を手にとって、そっと花びらをさわりました。そして、においをかぎました。最後に、その花の種を一つだけとりました。
「ふん」と気が付くと、いつの間にかあなたはいつも通り自分の部屋のとんとんの中にいました。
「今のは夢？」
そうつぶやいてから、手の中に違和感が。なんとあなたの手の中には、あのまぼろしの花の種が握られていたのです。
「夢じゃなかったんだ！」
さあ、目を開けてください。あなたはどんな花を想像しましたか？

【資料 3】オリジナルの物語文

発展させる（4～5 時間目）＜手立て③＞

これまで習った表現技法の見本を前面黒板に掲示することで、児童が発想のヒントにできるようにした。（資料 4）さらに、図工室後方に歯ブラシや網、ローラー、スポンジ、ストロー、ビー玉を準備し、周りに画用紙を用意することで、実際に試しながら自分のイメージに合う方法を見つけるようにした。（資料 5）A 児は、物語を聞いて前時までに「音の花」というテーマを決定していたが、周りに何を描いたらよいのか、どのように表現したらよいのかを悩む様子が見られたため、「お試しコーナー」に行ってみるよう声をかけた。スパッタリングをしたり、ローラーでグラデーションを描いたりする中で、「周りの草をローラーを使ってグラデーションにした上にスタンプングすれば立体感が出る」と気づき、試行錯誤してイメージを引き出した。（資料 6）



【資料 4】技法見本コーナー



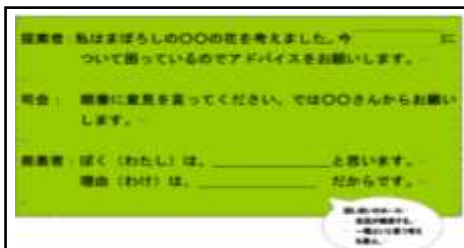
【資料 5】お試しコーナーの様子



【資料 6】A 児の試行錯誤の様子

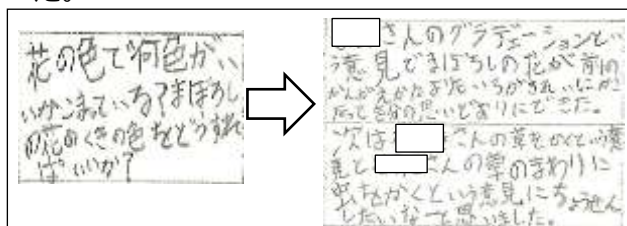
発展させる（6～8 時間目）＜手立て④＞

本学級では、4月から「話し合いカード」を用いて話し合い活動を行ってきた。本題材でも、見方や考え方を広げるための話し合いができるようにするために、話型（資料 7）を用いて話し合いを行った。A 児は、普段からアイデアを思いつくのに時間を要する傾向がある。本実践でも、「音の花にしたいけど、周りに何を描こうか」と悩む姿が見られた。そこで、自分の思いや何に困っているのかをワークシート（図工日記）で整理してから話し合うことで、視点を絞った話し合いができた。話し合いでは、友達から「音の花を見たら音楽を演奏したくなる」という意見をもらい、そこから音楽隊を描こうと考え、「どんな楽器を演奏しているだろう」「きっと天気の良い日に咲いて、みんなで合唱するはずだから、歌っている人も描こう」と、友達との対話から得た言葉を手掛かりにさらに発想を広げ、製作に生かそうとする様子が見られた。

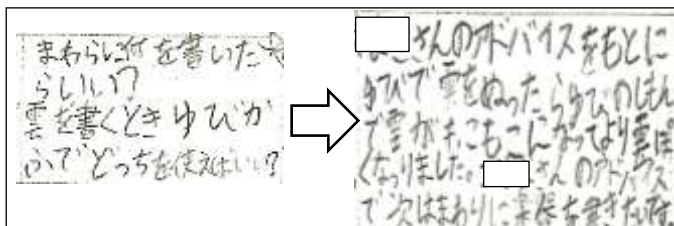


【資料 7】「考えを出し合う」話し合いカード

B 児は、これまで話し合いの時間になっても自信のなさから自分の意見を伝えずに終わってしまうことが多かった。しかし、中間鑑賞において友達に悩みを相談したり、自分のアイデアのよさを認めてもらったりすることで、自分の発想や表現に価値があることに気付くことができた。その結果、「空をグラデーションにしてみよう」という表現の工夫への意欲が高まり、自信をもって表現活動に取り組む姿が見られた。また、色の明るさのバランスに悩む友達に対して、「画用紙に色を塗った上から違う色を重ねると、調節しながら色の明るさを変えられるよ」と友達に自身の経験から学んだ描画の工夫を自分の言葉で教えてあげる姿も見られた。自分の悩みが解決した経験や、自分のアドバイスが友達の表現に役に立った経験を重ねることで、製作活動に自信が付き、新しい表現の工夫に挑戦しようとする事ができた。



【資料 8】図工日記 <B 児の振り返り>



<A 児の振り返り>

振り返る・生かす（9 時間目）<手立て⑤⑥>

「Padlet」は、写真を撮って画像をアップロードすることができるデジタル掲示板ツールである。複数の写真を並べて表示したり、画像に対するコメントを共有したりすることができる。そこで色使いや技法など視点を与えて鑑賞し、感じたことを書きこむ（資料 9）ように伝えた。A 児 B 児ともに紙のワークシートのときは、作品に対して自分一人の見方でした鑑賞できなかったが、「Padlet」での鑑賞では、自分や友達の作品に対する他者のコメントも見ることができ、リアルタイムで「他者の見方」を取り込んだ対話的な鑑賞ができていた。また、中間鑑賞時の作品と完成作品を見比べながら鑑賞することで、



【資料 9】Padlet での鑑賞の様子

作品がどのように変化したのかを具体的に振り返ることができた。例えば、B 児は A 児の作品に対して「花びらにラメを足していた」「周りに音楽隊を描いていた」など、友達が工夫した点に気付くことができていた。学習の最後の振り返りでは、関わり合いのよさを実感し、学んだことを次時に生かすことができるように、話型が書かれたワークシートを用意した。B 児は「友達の作品の色の塗り方が参考になった」と記述し、A 児も「友達の指で雲を描くというアイデアで本物の雲のようにできた」（資料 9）など、関わり合うことのよさを見

出している意見が多く見られた。さらに、本時の学びを次時の活動にも生かしていけるように、「次は～したい」という次時の目標も考えるようにしたことで、毎時間、目的をもって活動に取り組むことにつながれたと感じる。また、校内作品展で展示し、多くの保護者に鑑賞してもらった後、フォームで意見をもらった。もらった意見を子どもたちに伝え、全員が喜んでいて、

手書きしなくても、タブレット入力で書き込めるから。	17
色んな意見を見ることが出来るから。	17
いいねで褒めてもらえるし嬉しいから。	18
みんなの意見を見ることが出来るから。	21
意見を言われるので、比べながら頑張れるから。	16
その他	0

<アンケート結果>（児童へ Padlet での鑑賞のどんなところがよかったかのアンケート）と、（保護者アンケート結果）

7

成果と課題

（1）研究の成果

◆ 手立て①：オリジナル物語の読み聞かせと学習計画作成

B 児はオリジナルの物語を聞いてすぐに「お話ができる花の種を持ってたと思う！」と、テーマをイメージをすることができていた。このことから導入でオリジナルの物語を読み聞かせたことは、児童に

具体的なイメージを想起させることに有効であったと言える。また、学習計画を児童と話し合いによって決定することは、活動の流れの見通しがもて、主体的に取り組むことに有効であったと言える。

◆ 手立て②：花が咲く情景を思い浮かべて種を作る活動

物語を聞いてもイメージをもてなかったり、アイデアが固まらなかったりした A 児への支援として種づくりをした。種の形から「花の形」「茎の伸び方」「色のイメージ」などを逆算し、「どんな花が咲く種だろう」と考えることで、どの児童も自分の世界観をつくり始めることができた。以上のことから手立て②は有効であったと言える。

◆ 手立て③：「お試しコーナー」の設置

A 児を含めた多くの児童が道具を実際に試すことで自分のイメージに合う方法を見つけようとする姿が見られた。実際に、「お試しコーナー」で試行錯誤した経験を生かして作品を仕上げた児童が何人もいる。このことから、図工室後方部に様々な道具や技法を試せる区画を設置したことは、表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かして使うことができるとともに、何度も試せることでイメージが膨らみ安心して製作に取り組むことに有効であったと言える。

◆ 手立て④：自分の課題を解決する中間鑑賞

発想を広げられるように友達と一緒に表し方を考える中間鑑賞の場の設定をしたことにより、B 児を含め多くの児童がそれぞれの困りごとについて話し合い、表現を工夫することができた。このことから、中間鑑賞は、児童が他者の考えを取り入れながら発想を広げるために有効な手立てであったと言える。

◆ 手立て⑤：デジタル掲示板ツール「Padlet」の活用

A 児 B 児を含めた多くの児童が「Padlet」を通じて、実物と画像の両方を見ながら作品に対する感想や質問をし合い、対話的な鑑賞ができた。また、自分や友達の作品に対して「他者の見方」を取り込むことで、「自分では気付かなかったことに友達の意見で知ることができた」と発表する児童もいた。さらに、書き込まれた文章を翻訳してアップロードすることで、普段は日本語による意思疎通に困難さのある外国籍児童とも考えを伝え合うことができていた。このことから「Padlet」を活用した鑑賞は、活動への参加度を高め、他者の考えと自分の考えを比べて学びを深めるために有効な手立てであったと言える。

◆ 手立て⑥：学びを次時につなげる振り返り

手だて⑥では、B 児は話型が書かれた図工日記を参考にして自分の考えをまとめ、友達からの意見で変わったことや、次回への目標をもつことができていた。最後はクラスの前で「〇〇さんのグラデーションにして塗るという意見で前よりも色がきれいに重なって自分の思い通りにできた。次は草の周りに虫を描くことに挑戦したい」と振り返りを発言することができた。このことから、話型を設けた図工日記での振り返り活動は、児童が他者の意見や作品から得たことを伝えたり、次時に応用しようとしたりするために有効な手立てであったと言える。

（２）今後の課題

本研究では、グループ活動を通してイメージを広げたり参考になるアイデアをもらったりしたが、話し合いを通して納得いく意見がなく、自分の悩みが解決しない児童もいた。話し合いを活用した中間鑑賞が児童の発想をさらに広げるための有効な手立てになるよう、中間鑑賞のもち方を工夫する必要がある。また、話し合いに時間がかかり過ぎると、十分な製作時間の確保ができなくなってしまう。関わり合いの中でさらに学びを深めつつも、製作時間も十分に確保できるよう、話し合いの力をつけていくことも今後の課題であると感じた。

「Padlet」を用いての鑑賞は、児童が自分の気付きや疑問、感想を簡単に投稿できる上に、他の児童の意見もリアルタイムで閲覧することができるため、対話的な鑑賞が効率よく行えるよさがある。一方で、作品をじっくり見る前に他者のコメントが目に入り、自分の感想をもちにくくなったり、「いいね」やコメント数が多い作品に評価が偏りやすくなったりする。今後は鑑賞する視点を与えたり、コメントの少ない作品も紹介したりして、児童同士が認め合い、高めていけるような鑑賞活動を目指したい。